

第1回 ダイバーシティ意見交換会

今回は、第1回目の開催として、本学園の女性教職員のなかでも、ロールモデルとなるようなご経験が豊富なみなさまにお集まりいただき、これまでのキャリアやライフワークバランス、産休育休経験などについてお聞きしました。和やかな雰囲気の中、それぞれのご経験に基づく貴重な話をお聞かせいただきました。

参加者プロフィール



北尾 聡子（大学教員）

建築・デザイン学部

建築・デザイン学科 建築専攻
准教授

専門は建築構造力学・建築構造工学

学生に囲まれながら教育や
研究に携わる時間が充実していて、
とても楽しく過ごしています。



赤滝 久美（大学教員）

医療健康科学部

理学療法学科 教授

専門は運動生理学・生体信号解析

現在は学校法人の理事と
学科主任を務めており、
大学や学園全体でのダイバーシティ
推進に力を入れています。



太田 暁美（大学教員）

医療健康科学部

健康スポーツ科学科 教授

専門は応用健康科学・運動生理学

今年度から学部長に就任しまし
た。新学部の立ち上げもあり、
毎日忙しく過ごしています。



矢ノ根 かおり（事務職員）

大学事務局 学事部 学事課長

新卒入職し、経理課に配属後、学生
課（現在の学務課）に異動。
学生課で産休育休を取得した後に
係長、総務課へ異動後に課長に。
四條畷学務課長や駅前事務室長等を
経験。現在は教授会を含む各種会議
の運営や入学式の運営等を担当。

男女雇用機会均等法が制定されるあ
たりに入職しました。本日の意見交
換会を楽しみにしていました。



東 尚子（事務職員）

法人事務局 広報部 広報課長

新卒入職し、就職課に配属後、
係長に。約10年間産休育休を経験
したのち、入試部入試課に。
その後、課長として現部署に異動。
現在は学園全体の広報を担当。

いつもは取材をする立場なので、
少し緊張しています。本日はどうぞ
よろしくお願いいたします。



富田 冴子（事務職員）

法人事務局 総務部 総務課

中途入職し、総務課に配属。
現在は、理事会運営や多様性推進
などの総務系全般を担当。
本学内の施設では、3D造形先端加
工センターがお気に入り。

本日はお集まりいただきありがと
うございます。
今回は司会進行を務めさせていた
だきます。

ライフワークバランスについてどのように感じていますか？



(赤滝)
「考え方がはっきりと変化してきている」

(矢ノ根)
「仕事の幅も広がり、男女関係なく
ライフサイクルに合わせて働きやすくなった」



(矢ノ根)

入職した当初は、ちょうど男女雇用機会均等法が施行されたばかりで、まだまだ女性が活躍できる環境が整っていなかったように思います。でも今は、仕事の幅も広がり、男女関係なくライフサイクルに合わせて働きやすくなったと思います。男性女性問わず、育児や介護と両立しながら仕事する人も増えてきましたね。

(太田)

育児と仕事を両立するにはパートナーの協力が不可欠だと思いますが、最近の若い世代の男性は家庭にも積極的に関わっている印象ですよね。昔と比較して、ライフとワークのバランスが変化してきたと思います。

(東)

本学でも、男性職員が「今日は夕食の準備があるので早めに帰ります」とか、子どもの送り迎えをしている姿をよく見かけます。家事にも積極的な方が増えてきましたよね。

(赤滝)

確かに、本学の教員は専門業務型裁量労働制のため、時間の融通が利くので、保育園の送り迎えや育児にしっかり関わる方が増えてきました。昔だと、男性は育児や家事には関わらないみたいなのところがありましたが、考え方がはっきりと変化してきていますね。

(北尾)

うちは決まり事なく自由で、夫とはお互いに得意分野を自然と担当している感じです。ただ、私の得意分野を夫がやってくれる時は、少しストレスになるときもありますけど（笑）

産休育休・職場復帰への不安や、復帰後の苦労などありましたか？



(北尾)

「育児を通して、スケジュール管理の習慣が身に付いた」

(矢ノ根)

「仕事も私生活も、出産前と出産後では
ライフスタイルが一変した」



(北尾)

以前勤務していた大学での話ですが、産休育休に入るときに周りの先生方がとてもサポートしてくださって心強かったです。

復帰後は、ウォーミングアップしていたのに、何もわからなくなったような気がして、なかなか仕事のペースを取り戻すのが大変でした。でも育児を通して、スケジュール管理の習慣が身に付いた気がします。復帰後は子どもの体調不良で急に早退することがありましたが、周りの理解があって助かりました。

(東)

私も育休を取ったときには、周囲にしっかりサポートしてもらいました。復帰してからは育児と仕事の両立が本当に大変で、産休前と同じ部署だったので業務内容は把握できていたものの、家庭内でワンオペになる時期もあり、職場で周囲からしっかりサポートしてもらい、大変助かりました。

(矢ノ根)

確かに、自分以外の時間が増えたことが大変でしたよね。今となっては良い思い出ですが、自分にだけ使える時間というのが本当に少なくなって。仕事も私生活も出産前と出産後ではライフスタイルが一変しましたね。

(富田)

北尾先生は他大学にて産休育休を取得されたとのことですが、そのときに利用された制度などありましたか？

（北尾）

以前勤務していた大学では、育休明けの教員に研究補助員を雇える制度がありました。研究支援として週1日、7時間分のアルバイト代が支給されていたのですが、すごく助かりましたね。

（赤滝）

本大学にもそういうサポートがあるといいですね。例えば、TAなど学生アルバイトでもいいので、少しでもサポートができるといいのですが。

（北尾）

そうですね。資料やデータの整理を手伝ってもらえるだけでも随分楽になりますから。

（太田）

事務職員ではどのようなサポートがあるのでしょうか？

（矢ノ根）

産休育休明けの職員にペアで業務を担当してもらい、急なお休みにも副担当がカバーできる体制を整えている部署が多いですね。

子育てをしている頃は、先輩がよく「大丈夫か？」など声をかけてくれました。理解してくれる人が近くにいるだけでも心が楽になるので、自然に声を掛け合える環境にしたいですね。

（東）

私も現在、幼い子供を育児中の部下がいるので、声をかけてサポートするようにしています。情報共有やバックアップ体制を整えて、気軽に休める環境を作り出すことが大切だと思います。

（赤滝）

そうですね、声かけやサポートは大事ですね。

女性教職員のみならず、育児や介護期にある男性教職員に対しても、休みやすい環境作りは大事だと思います。



管理職を経験した感想・やりがいは？



(太田)

「他学部との交流が増え、仕事の幅が広がった」

(東)

「やりたかったことを実現できる場面が多く、とても楽しい」



(赤滝)

とはいえ、本学では、まだまだ女性教職員が少ないのが現状です。女性の管理職も少ないですね。矢ノ根課長や東課長は職員として多くの経験を積まれたと思いますが、管理職になった際に戸惑ったことはありましたか？

(矢ノ根)

私が管理職になった当時は、女性の管理職として大きな戸惑いを感じることもありました。また、今まで経験したことがない部署に課長で異動することもあり、業務の流れも分からない状態での課長職なので、強い戸惑いやプレッシャーとかで心が疲れてしまうこともありました。

(東)

私は部署異動と昇進が同時だったので、課の業務をしながら、勤怠管理などの管理職業務をこなすことが大変でした。誰かが教えてくれるわけでもなかったので、前の部署の上司に聞きながら進めていました。大学と法人でシステムが異なるので、戸惑うことも多かったです。

(富田)

教員も職員も管理職は大変そうですが、やりがいはありますか？

(東)

もちろん大変さはありますが、自分がやりたいと思っていたことを実現できる場面も多く、楽しさを感じます。

(矢ノ根)

いろんな人と関わって、毎日のように様々な情報が入ってくるのも管理職としての面白い点ですね。四條畷学務課長のときは、ほんとうに色んな先生方と交流の機会があり、自身の人間関係もすごく広がりましたね。

(赤滝)

確かに、私も理事会に参加するようになって、大学経営の根幹に関わることができるのはとても興味深いと思っています。

(太田)

学部長になって、出席しなければいけない会議もその分増えましたが（笑）。他学部の先生方や学外の方とも交流する機会が増えて、自分の仕事の幅が広がったと思います。



ダイバーシティ推進について今後の展望は？



(赤滝)
「まずは一步踏み出すことが重要」



(太田)
「小さな変化を積み重ねていきたい」

(赤滝)

本来、ダイバーシティは女性のみが対象ではありませんが、本学は他と比べて女性教員比率が低いです。特に工学系の学部が多いため、女性教員の応募自体が少なく、採用活動の幅を広げる工夫が必要だと考えています。そのためにも、まずは一步踏み出すことが重要です。小さな一步を積み重ねることで、学園全体の意識改革につながることを期待しています。

(北尾)

建築・デザイン学部が新設され、寝屋川キャンパスでも女子学生が増えてきて、学内の雰囲気も少しずつ変わっていると感じます。女子学生が増えることで、女性目線の新しいアイデアや環境が作り出されていくと期待しています。

(太田)

1つずつ着実に進めていくことで、その過程で成果が見えれば周囲も賛同しやすくなると思います。今後も小さな変化を積み重ねて、学園全体でダイバーシティ推進を進めていきたいですね。

(富田)

本日は貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

仕事と家庭の両立や産休育休経験、管理職としての職務経験など、さまざまな話を聞くことができました。私自身、将来のライフイベントと仕事のバランスをどうしていくか、具体的なイメージがありませんでしたが、この会を通じて、自分自身のキャリアを改めて考えるきっかけになりました。また、育休産休取得、復帰にあたっては、「職場の理解と支援が必要」という声が多く、制度そのものだけでなく、周囲のサポートや職場の文化が大きく影響していることが印象的でした。

今後も、意見交換会の開催やさまざまな企画を検討しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。